

平成27年度事務事業評価シート

平成27年7月1日作成

事業番号	1084	担当部課	教育部 図書館							
事務事業名	図書館施設整備事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成 25 年度

1 事業概要(平成27年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P126 ゆがわら2011プラン 前期基本計画	4 生涯を通じて学び 豊かな心を育むま ちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(3) 図書館施設・運営 の充実	① 図書館施設整備の推 進
関連する個別計画					
目的	建物及び附属設備等の安全性を確保し、適切な図書館運営を行うこと				
対象	町民及び図書館利用者				
内容	開館から35年以上を経過した建物及び附属設備等の老朽箇所を改修する 【平成25年度】LED照明取替工事、防犯カメラ設置工事、雨樋改修工事 【平成26年度】エレベーター改修工事(繰越事業)、塔屋防水工事 【平成27年度】高圧受変電設備改修工事				

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(見込)		
コスト	事業費	8,702,085	14,293,361	1,210,000		
	人件費	常勤職員	446,502	461,930	125,416	
		非常勤職員等				
	人件費合計	398,663	296,955	78,385		
総事業費	9,100,748	14,590,316	1,288,385			
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	9,100,748	14,590,316	1,288,385		
財源合計	9,100,748	14,590,316	1,288,385			
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成25年度	平成26年度	目標値	
貸出点数	年間貸出総点数	点	149,438	150,222	151,000	
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成25年度	平成26年度	目標値	
LED照明導入による省電力	省電力量/前年度消費電力	%	15.31	15.18	5	

3 平成26年度までの事業分析及び改善点

評 価 3段階とその理由を記入(A:高い B:普通 C:低い)			
必 要 性	町が実施する必要があるのか	B	図書館は町直営方式により管理・運営しているため、施設の整備については町が実施する必要がある。
効 率 性	投入した費用に見合った効果が得られているか	B	竣工から35年以上を経過した建物であり、優先順位を考慮して実施した。
有 効 性	事業の目的に対して成果が得られているか	A	エレベーターの改修及び防犯カメラ設置による館内の安全確保及びLED照明導入による省電力化等の効果が得られた。
公 平 性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	A	建物及び附属設備等の安全性が確保されることにより、来館する利用者等が安心して継続的に図書館を利用することができる。

平成26年度までの改善点	エレベーター改修工事については、動力系部品が供給停止(平成26年3月)となることから、耐震設計基準への適合と併せて、設備の安全を確保する観点から、優先順位を引き上げて改修工事を実施した。
--------------	---

4 見直し及び改善

平成27年度の見直し及び改善(実績または予定)	平成27年度は高圧受変電設備改修工事(高圧受変電設備への地絡保護装置付地中線用高圧負荷開閉器の設置及び高圧ケーブルの交換)を実施し、地絡事故等による近隣世帯への波及を防止する。
平成28年度以降の方向性	老朽化、安全性及び利用者への影響等により優先順位を考慮し、引き続き建物及び附属設備の改修を実施する。

5 一次評価(平成28年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	図書館利用者の安全性及び利便性の向上を図るため、建物及び附属設備の改修が必要と考える。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

・特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

平成27年度事務事業評価シート

平成27年7月1日作成

事業番号	446	担当部課	教育部 図書館							
事務事業名	図書館資料整備事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	03	事業開始年度	平成 12 年度

1 事業概要(平成27年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P126 ゆがわら2011プラン 前期基本計画	4 生涯を通じて学び 豊かな心を育むま ちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(3) 図書館施設・運営 の充実	② 図書館資料の充実
関連する個別計画					
目的	多様化する社会の変化と町民のニーズに応えられるよう、図書館資料を収集し、 利用者に提供すること				
対象	町民及び図書館利用者				
内容	豊富で新鮮な幅広い図書、逐次刊行物、郷土資料及び視聴覚資料を選択・収集 し、利用者に提供すること				

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成25年度(決算)	平成26年度(決算)	平成27年度(見込)		
コスト	事業費	6,262,610	6,290,620	6,217,000		
	人件費	常勤職員	1,498,971	1,375,334	1,306,858	
		非常勤職員等	502,860	253,440	256,320	
		人件費合計	2,001,831	1,628,774	1,563,178	
	総事業費	8,264,441	7,919,394	7,780,178		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源	2,700,000				
	一般財源	5,564,441	7,919,394	7,780,178		
財源合計	8,264,441	7,919,394	7,780,178			
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成25年度	平成26年度	目標値	
人口1人当たりの資料購入費	年間資料購入費／人口	円	223.2	229.5	313	
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成25年度	平成26年度	目標値	
人口1人当たりの貸出点数	年間貸出総点数／人口	点	4.4	5.2	6	

3 平成26年度までの事業分析及び改善点

評価 3段階とその理由を記入(A:高い B:普通 C:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	A 地域において、教養、文化の水準を高め、情報、知識を得る窓口として、子どもから高齢者までの利用を推進している。また、町の図書館として郷土資料等の貴重な資料を収集・保存していく責務がある。
効率性	投入した費用に見合った効果が得られているか	A 重点分野を中心とした資料の収集及び整備を進めた結果、高齢者等の利用増が表れ始めている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	B 一般図書に関しては貸出数の増加が見られたが、児童図書に関してはまだ十分な効果が得られていない。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	B 全町民を対象としており、来館が困難な町民に対しては、巡回等により資料を利用できるよう対策を講じている。

平成26年度までの改善点	貸出及びリクエスト状況等を踏まえ、重点分野を強化して収集した。また、県内公共図書館との相互貸借や寄贈本の利活用等を行った。
--------------	---

4 見直し及び改善

平成27年度の見直し及び改善(実績または予定)	昨年度に引き続き、子育て支援、青少年の育成及び高齢者対策を重点分野として、資料の収集及び整備を進めていく。
平成28年度以降の方向性	今後も社会の変化と町民のニーズに応えられるよう、様々な資料や情報を提供し、町民の読者推進を図っていく。

5 一次評価(平成28年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	利用者が、あらゆる種類の知識と情報をたやすく入手できるよう、公共図書館としての使命を果たしていく。
------	----------	---

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

・特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

平成27年度事務事業評価シート

平成27年7月2日作成

事業番号	452	担当部課	教育委員会 教育部 美術館							
事務事業名	展覧会開催事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	04	事業開始年度	平成 10 年度

1 事業概要(平成27年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P132 ゆがわら2011プラン 前期基本計画	4 生涯を通じて学び 豊かな心を育むま ちづくり	Ⅱ 文化芸術の振興	1 文化芸術	(2) 町民文化芸術活 動の支援	② 美術館の充実・活用
関連する個別計画					
目的	湯河原に残された文化遺産を後世に伝える役割を担いながら、観光客や町民が湯河原の魅力を感じられるよう、美術資料を活用した展覧会を企画する。また、生涯学習施設として作家展や講座などの充実に努めるとともに、学校と連携して児童生徒の教育支援を行う。				
対象	観光客及び町民				
内容	平松礼二館では年4回の企画展、常設館では年4回のゆがりの作品を展示替えする他、収蔵作品小企画展や現代作家展を開催する。また、平成27年度は特別展として青梅市立美術館との交換展を開催する。				

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成25年度(決算)		平成26年度(決算)		平成27年度(見込)	
	事業費	1,918,701	2,216,626	4,127,000		
コスト 人件費	常勤職員	4,669,200	4,830,000	4,571,400		
	非常勤職員等					
	人件費合計	4,669,200	4,830,000	4,571,400		
総事業費	6,587,901	7,046,626	8,698,400			
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	6,587,901	7,046,626	8,698,400		
財源合計	6,587,901	7,046,626	8,698,400			
活動指標	指標設定の理由・考え方		単位	平成25年度	平成26年度	目標値
平松礼二館・常設館企画展	展覧会の開催		回	5	5	5
現代作家展	地元作家紹介		回	3	3	3
成果指標	指標設定の理由・考え方		単位	平成25年度	平成26年度	目標値
総入館者数	事業の成果		人	15,252	15,062	16,000

3 平成26年度までの事業分析及び改善点

評価 3段階とその理由を記入(A:高い B:普通 C:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	A	町所有の美術品及び借用品のため、直営が望ましい。
効率性	投入した費用に見合った効果が得られているか	C	人件費、必要経費を勘案すると採算性は低いと考える。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	B	文化財の保存、展示公開を行った。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	A	美術館活動を広く一般に公開している。 また、町民料金を設けることにより、町民に安価で公開している。

平成26年度までの改善点	特別展の開催を計画し具体化できたが、継続的に実施することにより一層町民及び一般の方の美術作品に親しむ機会を提供する。
--------------	--

4 見直し及び改善

平成27年度の見直し及び改善 (実績または予定)	特別展の開催を実現。
平成28年度以降の方向性	特別展の開催を継続的に実施することにより、一層町民及び一般の方の美術作品に親しむ機会を提供し、入館者の増加を目指す。

5 一次評価(平成28年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	魅力ある特別展により、町民及び観光客に美術作品に親しむ機会を提供していく。
------	----------	---------------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

・特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

平成27年度事務事業評価シート

平成27年7月2日作成

事業番号	451	担当部課	教育委員会 教育部 美術館							
事務事業名	運営委託事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	04	事業開始年度	平成 10 年度

1 事業概要(平成27年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策
P132 ゆがわら2011プラン 前期基本計画	4 生涯を通じて学び 豊かな心を育むま ちづくり	Ⅱ 文化芸術の振興	1 文化芸術	(2) 町民文化芸術活 動の支援	② 美術館の充実・活用
関連する個別計画					
目的	美術館学芸業務及び運営業務を充実する。				
対象	観光客及び町民				
内容	(有)コミュニティサービスに学芸業務及び運営業務を一部委託する。				

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成25年度(決算)		平成26年度(決算)		平成27年度(見込)		
	事業費	3,703,000		3,703,000		3,703,000	
コスト 人件費	常勤職員						
	非常勤職員等						
	人件費合計	0		0		0	
総事業費	3,703,000		3,703,000		3,703,000		
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源						
	一般財源	3,703,000		3,703,000		3,703,000	
財源合計	3,703,000		3,703,000		3,703,000		
活動指標	指標設定の理由・考え方		単位	平成25年度	平成26年度	目標値	
平松礼二館・常設館企画展	展覧会の開催		回	5	5	5	
現代作家展	地元作家紹介		回	3	3	3	
成果指標	指標設定の理由・考え方		単位	平成25年度	平成26年度	目標値	
総入館者数	事業の成果		人	15,252	15,062	16,000	

3 平成26年度までの事業分析及び改善点

評価 3段階とその理由を記入(A:高い B:普通 C:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	A	町が運営する美術館の業務のため。
効率性	投入した費用に見合った効果が得られているか	A	専門的な学芸業務を委託することにより人件費の抑制が図れる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	A	展覧会企画や教育普及活動を委託することで美術館の円滑な運営ができる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	B	美術館全体の活動に寄与している。

平成26年度までの改善点	委託料を前年同額にすることで経費の削減をした。
--------------	-------------------------

4 見直し及び改善

平成27年度の見直し及び改善 (実績または予定)	学芸員としての資質を向上させ、美術館活動の充実を図る。
平成28年度以降の方向性	学芸員としての資質を向上させ、美術館活動の充実を図る。

5 一次評価(平成28年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	継続して展覧会企画や教育普及活動を委託し、美術館の円滑な運営を行う。
------	----------	------------------------------------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

・特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--